

共に歩む

第4回



今回は、前橋市の富士りタイプである。しかし搬送経路を直線の組油圧精機と東毛産業技術し、下取りカードフィーダを組み合わせにより実現してセンターで共同開発を行った。搬送経路を曲線により実現した、「高速上取りカードフィーダー」を紹介する。

『開発ニーズ』

カードフィーダーはカードの束からカードを一枚ずつ抜き取って次工程に搬送する装置であり、

やすいカードでは活用で取り始めの段階でカードに印刷された50枚以上のカードの束の下側から大きな場合もあった。その自体が湾曲してしまうカードを抜き取る下取りカードといった背景から、以前とから、硬度の高いカードより、上取りでありながらドでは折り目が入るといふ別の問題が発生してしドの束の上側からカードから高速での搬送が行えるう別の問題が発生してしを抜き取る上取りカードカードフィーダーの開発まう危険があった。

『課題解決へ』

上取りカードフィーダーは機構上搬送速度が低速になってしまふことか、現状ではカードフィーダーのほとんどは下取り

なつた。こういった複雑な搬送経路を実現するに単一の機構では困難であつたために、2つのリンク機能を組み合わせる複合的な運動を得る機構を考案した。この新しい機構については特許出願済みである。

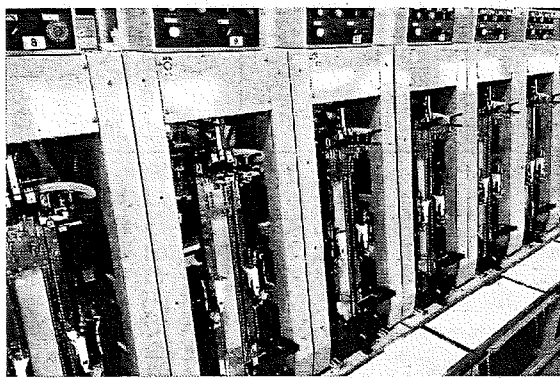
『製品化に向けて』

カードフィーダーは、1日も早い製品化を望む声が多く聞かれた。製品化に向けた最後の課題としてはさらなる搬送速度の高速化がある。

高速上取りカードフィーダー

富士油圧精機

取り始めの段階からわずかな時間のみを直線運動でも、カード用の丁合機としての製品化を進め、当初は、カードの束の上



開発したカードフィーダー

面と抜き取り機構の位置関係をもよく制御できないことによるカードの抜き取りミス等も発生したが、そういった問題も解決されていくことだ。今後、

県内中小企業の支援機関として、03年に前橋と太田に開所した公設試験研究機関。技術支援、研究開発、人材育成などを

【執筆】東毛産業技術センター長 小宅勝

【群馬県立産業技術セ